

16. 地域の発展と国際化 - 公害都市水俣市の活性化にむけて -

1. 調査の目的

2006年(平成18年)は水俣病が公式に確認されてから50年となった。これを機に東京・新潟・水俣の各地で記念行事が開催された。「水俣病の失敗に学び未来に活かしていく」ことを明らかにした。

水俣病の発生した1950年代から60年代にかけての時代背景は日本の経済成長が第1の目標とされ、住民の健康等にまで目が届かなかった時代である。そのような中で企業は十分な公害対策をすることなく、企業の成長を目指したものである。その結果各地で公害被害が拡大していったが、水俣病はその深刻さ、範囲の広さにおいて他に類を見ないほどであり、まさに公害の原点といえるものといえよう。

水俣市は50年前に名付けられた「水俣病の水俣」から生まれ変わりつつある。市民行政が一体となって再生を図る。現在では「環境の水俣」を標榜し、環境保護のモデル都市を目指している。

本レポートでは現在水俣市がとり組んでいる環境事業を核としてそれをどのように発展させていくべきか、またこのことによりいかに地域の活性化を図っていくかを展望した。

2. 調査結果の概要

第1章では水俣市の取り組んでいる環境活動について調査した。現在各地の自治体で実施されている環境活動はほとんど実行されているが、資源ごみの22分別収集、ISO14001の認証取得及び小中学校への拡大、環境水俣賞の創設等ユニークな活動も多い。

第2章ではエコポリスみなまの理念及び、現在集積している企業群について調査した。

第3章では環境水俣賞について述べた。水俣賞は一自治体が世界を相手に環境活動を顕彰するという画期的な事業といえる。ここではさらに発展させるため技術部門の導入とこれをもとにクラスター創生を目指すための提案を行った。

第4章ではこれからの産業として産業観光を中心として発展させるために現在実施されている環境活動をいかに取り込んでいけばよいかを考えた。

第5章ではヨーロッパで有名な環境都市ドイツのフライブルグの環境政策を述べた。水俣市と比較して優位な地位にあるとは言えないが、フライブルグの情報発信力に対して水俣市は大きく劣位にある。そこで情報発信としての環境水俣賞の活用を促す。